

# 私大瓦版

二〇〇五年十月二十八日

第五十一号

私大螢雪編集部

## 大学入試はまだまだこれから。 気合い入れてしまっごう!!

### 川崎医療福祉大学が 清心女子高等学校と 連携教育で協定締結

川崎医療福祉大学はこのほど、学校法人ノートルダム清心学園・清心女子高等学校と、高・大連携教育に関して協定を締結した。

受験生の皆さんは、高・大連携教育をご存じだろうか？ 大学が高校に対して、大学施設を利用した授業の提供したり、大学の専門教員が出張講座を行い、専門教育の内容の理解を深めさせるとともに、高校生自らの学習意欲や進路意識の高めることを目的に実施するものだ。

さて、今回、協定締結したこの連携教育は、大学の教員が高校の進路学習や総合学習の指導に部分的に協力するという従来

の形態とは違い、より新しい連携の方向性を探る試み。体系的な「学びのテーマ」を設定することによって、高校と大学の教員が生徒の育成を連続的な視点からとらえ、体系的な学力と社会に対する意識形成をめざした発展形だ。

清心女子高等学校は平成11年度より、高校2年生を対象に

「発展科目」を設定し、教科の枠を越えた学習テーマを自ら選び、主体的に学

ぶ力を育成する取り組みを続けてきた。この「発展科目」では学ぶことの意義と楽しさを知り、大学に進学してからも生かせる力を身につけることをめざして、高・大連携教育を意識した実践も積み重ねてきたという。

平成18年度からは教育課程をさらに充実・発展させ、「文理



コース」「生命科学コース」を新たに設置。従来の「発展科目」を「文理コース」のカリキュラムの中に位置づけ直し、高・大連携教育の取り組みを発展させる。より密度の濃い充実したものにするために、距離的に近

る川崎医療福祉大学との連携教育の可能性を検討。協議を重ねた結果、平成18年度から高校2年生を対象に、「発展科目」の中に川崎医療福祉大学の高・大連携講座を開講することになったというわけだ。

高校生が1年間継続して大学の教員による講義を受講したり実習を行うことで、生徒に知的な刺激を与え、社会に対して目を開く契機をつくることができ

い、という進路意識を高めるだけでなく、将来の進路や職業選択につなげるなど、「学習への動機づけ」や「進路意識の明確化」、さらに「幅広い学力の向上」も図る。

清心女子高等学校「文理コース」2年次に、必修科目2単位として「発展科目」が設定され、開講されるいくつかの講座の中から、生徒は自らの興味・関心に基づき受講する講座を選択して1年間かけて学ぶ。

この講座のひとつに「知って、役立つ「マネジメント」」21世紀の医療福祉サービスとそのマネジメントのあり方」がある。

この講座を担当するのが、同大学医療福祉マネジメント学部の4つの学科。1年間で計28回の講義を7回ずつに分け、「医療福祉経営学科」→「医療情報学科」→「医療福祉デザイン学科」→「医療秘書学科」の4学科がリレー方式で授業を行う。

講義はすべて大学の教員が行うが、高校側も担当教員が生徒とともに受講し、高・大のコミュニケーションを密にしながら連携して教育にあたる体制を整備する。

講義や演習は、大学に高校生が通い大学施設で受講する場合と、高校に大学の教員が出張講義に行く場合とがあり、1年間の講義終了後には「まとめ」として、受講生徒たちによるプレゼンテーション報告会を実施する予定だ。

社会環境の変化や社会が求める人材像を踏まえて、高・大連携教育のあり方を再考する上で、今回のこの高・大連携教育が意義のある実践となることは間違いない。

川崎医療福祉大学では「高校生たちに「大学で何を、どのように学ぶか」ということを考える場を提供していきたい」としている。

